

野の仏ギャラリー①

釈迦如来立像

東多久町通玄院

光背付き立像で、足元には別造りの蓮華台があります。頭部に螺髪、眉間には白毫を刻み、右手は施無畏(畏れなくてよい)印、左手は与願(願いをかなえる)印を結んでいます。顔の表情は和やかで、口元の微笑みは古代の仏像を思い浮かべます。また、衣は丁寧に彫り込んであります。

銘「第九番 釋迦如来 法輪寺」明治十九年戊三月立



多久市郷土資料館長 藤井 伸幸

※如来は真理に到達し修行を完成した者を称します
※銘の第九番は、四国八十八箇所の順番です。法輪寺は、現在の阿波市にあります

今月の論語

君子は器ならず

器はひとつおりのものにししか使えませんが、教養のある人は、いろいろなことに役立ちます。

今月の帰宅放送は、東原摩舎東部校9年 松瀬 燦子さん(東多久町)です

教育長コラム

ちよっとい話



「制服」

入学式に生徒が来ない。担任が家庭訪問し本人に会えたが、翌日も来ない。心配していると、ある情報に辿り着いた。業者に制服を受け取りに行っていない、つまり支払いが困難だった。

生徒自身にとっては、みんなと一緒に採寸し待ちわびた入学式だった。「待っていた」「明日は来い」などと、学校側からの声掛けはどのように受け止めただろう。行きたいけれど自分では解決できない状況にあったことを察すると、いたたまれない。

事実が分かっているから、助けていただく人がいたり、市の福祉課相談員の支援や教育委員会による就学援助の支援を受けたりし、制服を受け取ることができた。

学校ではその反省から、卒業して不要となった制服を頂戴して保管するようにした。制服ストックといえば、かつては、異装して目立ちたい生徒たちを着替えさせる緊急用だったが、時代とともに意味合いが違って来た。

入学式はみんな揃って迎えたい。

教育長 田原 優子

市民文芸

昔から変らぬものは空の色

自然のいぶきに花を愛でおり

川浪 信子

ゆるしてもゆるされないのは分かってる

ゆるしは癒やし 原点回帰

野崎 隆幸

草餅を楽しみに来る公園に

桜吹雪としばし遊びおり

梶原恵美子

風雪に耐え花開き実を結ぶ

梅花の如し令和の夜明け

浦野 嘉恵

「令和」なるくみ合わせ我にはなじめない

命令に和せといわゆるることさ

尾形 節子

短歌 《麦の芽短歌会 互選》

リラ冷や 旅の鞆に 文庫本

酒好きの父を偲びて木の芽和 富樫 明美

菜の花の今を盛りの河川敷 本村 則子

花の屑いろはにはへと描きけり 倉成 皓二

木の芽風すこし和らぐ空の色 中嶋 清子

俳句 《互選》

怪電話こちらも役者になつてみる 古賀 弘子

お買得ちらし片手に無駄遣い 高塚 ちかこ

誰にでも出来る自分の新記録 西山 残月

ときめきも失恋も知り散る桜 大谷 和

シャボン玉のようにパチンと消えたいね 松下 修

川柳 《多久川柳会 互選》